

<スペシャルオリンピックスの概要>

スペシャルオリンピックス (Special Olympics : SO) とは、知的障がいのある人たちにオリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織。いつもどこかで活動しているということから、Special Olympicsと複数形になっている。SOではこれらのスポーツ活動に参加する知的障がいのある人たちをアスリートとよんでいる。

(1) 使命

アスリートの健康の増進、スキルの向上だけでなく、多くの人との交流を通じ、彼らの社会性を育み、自立と社会参加を目指す。

(2) 歴史

1962年6月にジョン・F・ケネディの妹のユニス・ケネディ・シュライバーが自宅の庭を開放して35人の知的障がいのある人たちを招いてデイキャンプを行ったのが始まり。ケネディ元大統領の姉ローズマリーは知的障がい者だった。

1968年ジョセフ・P・ケネディ Jr 財団の支援により組織化。「スペシャルオリンピックス」となり、全米から世界へと広がる。1988年に国際オリンピック委員会 (IOC) とオリンピックの名称使用について認める議定書を交わす。

(3) 組織等

SOは非営利活動で、運営はボランティアと善意の寄付によっておこなわれている。

本部はアメリカのワシントンD. C. にあり、170カ国以上で約420万人のアスリートと80万人以上のボランティアが活動に参加している。

スペシャルオリンピックスでは、オリンピックと同様に4年毎に夏季・冬季の世界大会を開催

(4) スペシャルオリンピックス日本

1994年11月に国内の本部組織である「スペシャルオリンピックス日本 (SON)」が設立され、現在では47都道府県に活動も広がり、全国で7,816人のアスリートと16,736人以上のボランティアが参加している。2012年4月公益財団法人スペシャルオリンピックス日本となる。(理事長：有森裕子) 4年ごとに夏季全国大会・冬季全国大会を開催。

(5) 公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・長野

1998年11月に設立され、2006年2月にNPO法人として認可。2015年12月、公益社団法人として認可された。現在、登録アスリート約200人、登録コーチ・ボランティア約300人。

夏季7競技、冬季7競技の日常スポーツプログラムを行っており、長野県内に9支部 (長野・上田・軽井沢・佐久・松本・諏訪・いほく・駒ヶ根・いいだ) があり、全県で年間に延べ700時間、延べ参加アスリート2,500名、コーチ1,300名が活動している。(2015年度実績)

2005年第8回冬季世界大会は長野県で開催され、84の国と地域が参加。日本選手団は150名。